

マドレデウスのコンサート①

チケットは村役場で

リスポンの宿は、階段下の物置小屋で窓もなく、ベッドの上にはほこりがたまっていた。誰かが階段を上り下りするたびに大きな靴音が響き、ほこりがパラパラと落ちてくる。いつまでここに居なければならぬのか憂うつだった。十数年前の話である。

ポルトガルに来たのは、長い間悲願だったマドレデウスのコンサートのためだったが、リスポンの街を1週間歩き回っても、いくつかのワールドツアーがあるだけで、コンサートの情報は他に見つからなかった。彼らが初めてコンサートを開いた廃虚の僧院のような場所で、その音楽に浸りたかった。2カ月あれば可能だろうと漫然と考えていたが当てはなかった。

ファド（ポルトガルの演歌？）

でもなくクラシックでもない、魂を浄化する清冽な水のような音楽だった。

ファドが生まれたアルファマ地区の安宿に移り、港に近い坂道にへばりつく狭い迷路をトポトポと歩いた。人生の最期は、このような場所で野垂れ死にしていくなかかもしれないと感じていた。

3週間も過ぎた頃、ポルト市の近くの小さな村でコンサートが開かれるという情報を得たが、村の役場に行かないとチケットは買えないという。電話予約も受け付けない。

たどり着いた小さな駅からはバスもなく、1時間歩いて着いた村は本当に小さかった。1軒しかないホテルは予約がいっぱいで、六つのベッドがある大部屋を1人で借りるしかなかった。（つづく）



橋本白道

佐賀県生まれ。京都で陶芸と出会い、備前で修業後、故郷に窯を開いた。スウェーデンやリトアニア、ドミニカ共和国に滞在し、ドキュメンタリー映画や陶芸学校づくり挑戦した。2007年、美郷町上野の空き家に、リトアニア出身の陶芸家ベアトリ―チェさんと夫婦で移住し陶芸工房を開いた。